

バングラデシュにおける問題点と要望

区分	意見元	No	問題点	問題点内容	要望	準拠法
1 外資参入規制	日機輸	(1)	駐在員事務所登録の延長手続の煩雑	・駐在員事務所の登録は、2年毎に延長が必要で、かつ延長時に多くの書類が要求される。		
5 部品産業政策上の規則	日機輸	(1)	国内繊維素材産業への優遇政策の不足	・当地最大の産業である繊維産業に関し、欧米、日本向け縫製品の1工程の特恵関税を政府が受け入れた事により、当地での素材(糸、生地)の生産が必要になったが、糸、生地の生産は装置産業であり、当地銀行借入れ金利が15%近い為、設備更新および増設はあまり進んでいない。 また、ガス不足・電力不足によるエネルギー代の高騰で素材代が他国に比べ高くなっている為、中国素材+ベトナム、カンボジア縫製という最近の競合相手のスキームに対して価格優位性を失いつつある。 (変更)	・長期的な成長と競争力の維持の為に、国内素材産業に対する税、インセンティブ等の優遇政策を政府に導入するよう働きかけ頂きたい。	
9 輸出入規制・関税・通関規制	日機輸	(1)	高額な輸入関税	・バングラデシュへの輸入に際し、高額な関税(現状確認出来ている最大税率は出荷品IV*110%)がかかる。	・妥当性のある税率を適用する。	
	日機輸	(2)	輸入関税率の恣意的適用	・毎回通関において恣意的な税率が適用されており、毎回の出荷品にどれほどの関税が適用されるか予測出来ず、無為替出荷等で当社が関税負担をする際に予算に収まらない等の問題あり。	・透明性のある税率適用を呼びかけて頂きたい。	
	日機輸	(3)	通関制度手続の不透明・遅延	・バングラデシュへの輸入に際し、一貫した通関制度が整備されておらず、属人的な通関が実施(毎回通関書類の指摘事項が異なる等)されている。無為替出荷等で当社が通関作業を実施する際に、毎回通関で時間を要しており、現着するのが遅れ、客先からクレームを受ける等の問題あり。	・画一的な通関システムを構築して頂き、通関制度を公に開示するように呼びかけて頂きたい。	
	日機輸	(4)	FTAの不在	・地域包括協定もしくは二国間FTAの枠組みがない。 (継続)		
	日機輸	(5)	ATAカルネ条約非加盟	・リターンカーゴ品等の一時的にバングラデシュで使用する物品に関して、日本等から出荷する際に無為替出荷品として出荷する必要あり、上記の通り高額な関税が課税される。関税を免税にするには、バングラ通関へ保証状の差入等の非常に煩雑かつ時間を要する手続きが必要となる。通常他の国(ATAカルネ条約加盟国)ではカルネ手帳(リターン品の関税を免税するように管理する手帳)が利用されており、関税が免税となっているが、バングラデシュはATAカルネ条約非加盟国であり、カルネ手帳の利用が適用されていない。	・ATAカルネ条約への加盟を呼び掛けて頂きたい。もしくは保証状の差入等以外の簡易な手続きを構築して頂きたい。	
12 為替管理	日機輸	(1)	L/C決済の遅延	・L/Cに関し、金額にかかわらず恒常的に遅延が起きている。 (一部削除)	・銀行に対する即時決済の徹底を促すよう、監督官庁へ働きかけ頂きたい。	
	日機輸			・銀行のL/C関連(発行・接受・支払)能力の不足。		
	日機輸	(2)	外貨の国外送金規制	・バングラデシュ国内にバングラで登録している企業が外貨口座を開設してもバングラ国外への外貨送金にはバングラ中央銀行からの承認を得ない限り送金が出来ず、送金が遅れるまたは送金が出来ない事象あり。 IPP案件では、SPC及びコントラクターには案件遂行の為に、バングラ国外で外貨の口座を開くことが認められているとの情報があるが、実際に運用出来るかは不透明。	・全事業者(バングラ法人及び在バングラの日本法人の支店等含む)に対して、バングラ国内から国外への外貨送金規制を緩和して頂きたい。	

区分	意見元	No	問題点	問題点内容	要望	準拠法
14 税制	日機輸	(1)	交換公文に基づく免税措置の不適用	・一部取引について交換公文にて免税の扱いとなっている項目に対し、日本企業に納税義務が生じている事例がある。 (変更)	・交換公文に基づいた免税範囲が適用される様、関係当局と調整頂きたい。	・交換公文(Exchange Notes)
	日機輸	(2)	複雑な税制度	・税制一般に法制度が複雑であり、かつ当局担当者の経験・知識の著しい不足。		
15 価格規制	日機輸	(1)	ガス低価格政策	・ガス田開発が遅々として進まない為、慢性的な電力不足が継続している。またガス自家発電が一般的な繊維工場やガスを原料とする肥料産業等の開発にもボトルネックとなっている。ガス価格が政策的に低く抑えられており、外資が参入するモチベーションに繋がらずガス田の開発が進まないのが原因。 (継続)	・ガス価格の適正化(値上げ)を行い、外資が開発に参入しやすく政策転換を行うよう、政府に働きかけ頂きたい。	
16 雇用	日機輸	(1)	不当な金銭要求	・VISA申請/更新時、コンプライアンス上問題となる金銭の要求をされるケースが現地の慣習としてある模様。正常な手続きを行う場合、非常に多くの時間がかかり、営業活動が阻害されている。(現地商工会と大使館で本国当局と制度につき協議中) またワークパーミット申請時、給与の全額バングラデシュ国内払いを要求された。日本商工会を通じたビジネス阻害要因対策委員会で取り上げてもらい、一定割合を本邦払いとすることを認めてもらったが、ワークパーミット更新時に本邦払いの比率を小さくするよう再度要求されている。規則に基づかず、担当官により対応が異なり、説得に多くの時間と労力を費やされる。 食料送付制度利用時に法外な手数料を税関職員が通関業者に要求するケースがあり、更に通関業者が自身の取り分を上乗せすることで通関手数料が異常に高くなることから、通関業者の起用や通関費用に対する厳しい管理が必要となっている。 (変更、要望追加)	・駐在員への給与支払いについては、本邦払いを明確に認めてほしい。 ・担当官の恣意的な考えにより、ワークパーミットの発行を人質にした駐在員給与のバングラデシュ国内払いを強要することのないよう働きかけて頂きたい。	
	日機輸	(2)	ワークパーミット延長手続の煩雑	・ワークパーミットの取得は、2年毎に延長が必要で、かつ延長時に多くの書類が要求される。		
	日機輸	(3)	ワークパーミット保持者のビザ取得手続の遅延	・ワークパーミットを保持しているにも関わらず日本人派遣員のビザ取得に数日を要する。		
25 政府調達	日機輸	(1)	交換公文の周知不徹底	・政府間で合意される交換公文がバングラデシュ側に周知徹底されていない。例えば、交換公文に記載されている免税の優遇措置を受ける為に必要なNational Board of Revenueからの確認レターを取得する事が非常に困難で時間を要している。 (変更)	・バングラデシュに交換文書の周知徹底を促して頂きたい。	
26 その他	日機輸	(1)	物流インフラの未整備	・チッタゴン港の未整備により、大型貨物船の入港が出来ず東アジアからの貨物はシンガポールでの積み替えを余儀なくされ、原料等のリードタイムが長い。 (継続)	・至急必要なインフラ整備を行うよう、バングラデシュ政府へ働きかけ頂きたい。	

	区分	意見元	No	問題点	問題点内容	要望	準拠法
26		日機輸			<p>・深刻な交通渋滞により非効率なオペレーションを余儀なくされ、特に海外企業にとって投資の阻害原因となっている。</p> <p>また郊外の工場へ道路整備状況が著しく悪いため、郊外工場への移動や原料・製品輸送に多くの時間を費やされる。短納期対応が世界の潮流となっており、これらの欠点が他の競合国対比クローズアップされてきている。</p> <p>(追加)</p>	<p>・至急必要なインフラ整備を行うよう、バングラデシュ政府へ働きかけ頂きたい。</p>	
		日機輸	(2)	エネルギー・電力政策の不合理	<p>・2015年9月、電力・肥料セクターを除く産業向け既存ガス価格が2倍に値上げされた。また2015年12月、今後約2年間、産業向けの新規ガス供給をストップされること、2016年初頭に再度産業向け既存ガス価格を現在より50%値上げすることが発表された。</p> <p>これに伴い、新規設備投資を行なう際、グリッドからの買電を余儀なくされる一方で、グリッドからの買電を前提とする新規設備投資案件に対して銀行融資の承認が下りないことが多く、繊維機械を始めとしたバングラデシュ向け機械輸出に陰りが出始めた。</p> <p>(継続)</p> <p>・天然ガスの減少、電力・繊維産業へ優先的にガス供給がなされ、投資先の肥料工場へのガス供給が毎年一定期間止められている。</p>	<p>・繊維産業はバングラデシュ一番の輸出産業であり、繊維産業の投資縮小は国益縮小に繋がりがねない。今後の中長期的な経済発展を考慮した電力・エネルギー政策を打ち出すよう政府に働き掛けを頂きたい。</p> <p>・エネルギー計画の立案・確実な実行を促し、約束したエネルギーの供給が恣意的に止められることのないよう政府に働きかけて頂きたい。</p>	
		日機輸	(3)	政情、治安の不安定化	<p>・従来との野党の政治対立、宗教問題、戦争犯罪裁判の判決発表に加え、イスラム国組織ISILの活動により、治安が不安定化している。</p> <p>特に2015年9月以降イタリア人及び日本人の殺害事件、2016年7月にはレストラン襲撃事件が起こり、日本人7名を含む多くの外国人の犠牲者が出た。テログループの摘発は行われているものの、テロの脅威は継続している。</p> <p>一方で、かつて頻繁に行われていたハルタルについては、1年以上暴力的・大規模なものは行われておらず、より平和的な抗議行動が続いている。</p> <p>(内容、要望ともに変更)</p>	<p>・バングラデシュの警察機能の強化をバ国政府に促して頂きたい。</p>	